

司会の言葉

心疾患を有する小児患者の「非心臓手術の周術期管理」

藤原孝憲*

心疾患を有する小児一般手術については著しい進歩が見られ、その成績も向上している。これは新生児、小児期における心疾患に対する早期診断技術、内科的管理法におうところが大きい。

新生児期では外科的緊急手術を心要とする疾患と、先天性心疾患の重症度との評価の問題が生ずる。しかし、重症外科疾患でも段階的な方法を取りながらも手術可能な症例は多くなった。一方では、心疾患と外科疾患のどちらを先に手術するか議論が依然として生じていることも事実である。

今回のシンポジウムでは、以上の点に関して、小児循環器内科でご活躍の中沢誠先生、小児一般外科でご活躍の蒲田振吉先生のお二人の専門分野の先生方を交えて、実際に小児麻酔に取り組んでおられる津田恵子先生、秦恒彦先生、堀本洋先生、何廣頤先生の四人の先生方と総括的に検討していただくよう企画した。尚、小児麻酔専門の先生方には、分類した病態の心疾患を一つずつ担当していただき、これらを合併して一般外科手術を受ける患児について、各施設での現状を紹介していただいた。そして、一般臨床で役立つような症例を呈示していただき、問題点を指摘、検討していた。

これらの症例については事前に各シンポジストに見ていただき、検討内容の充実をはかった。

さらに、各シンポジストには、発表の中で問題点として指摘、検討する部分について“その問題点と考え方”について纏めていただいた。これらの指摘された部分を纏めると次の如くである。

1. 年齢的な問題
2. 心疾患以外の合併奇形とその障害の内容
3. 手術のタイミング、術前心評価と診断
4. 心手術と外科手術の優先順位
心臓手術を優先させる場合の基準
倫理的、社会的要因との関係
5. 外科手術の緊急性や侵襲の大きさとの関係
6. 肺血流増加群、肺血流減少群の管理法
7. 不整脈、血圧低下、低酸素血症に対する対策
8. 周術期管理、モニターなど

以上の問題点の考え方については、各演者の発表の中から多くを引き出すことが出来ると考える。また、中沢先生、鎌田先生の発表では、総括的な要約もなされている。

*神奈川県立こども医療センター麻酔科